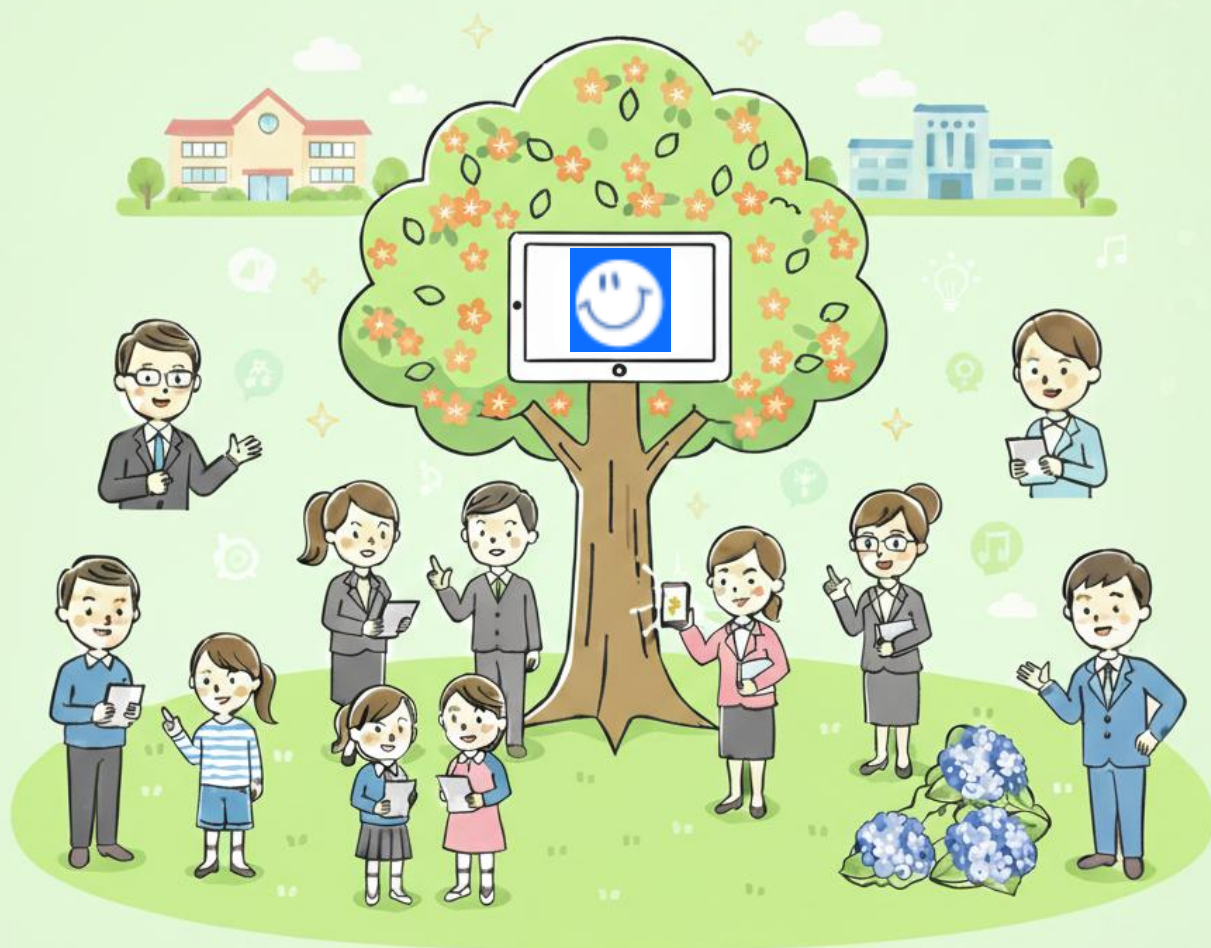


# 日進市学級力向上プロジェクト

# ガイドブック



スマイルクラス トップ画面



スマイルクラス 公式マニュアル

## 目 次

### 1. はじめに

- 1.1 報告書の目的と構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・愛知教育大学 磯部 征尊  
利晶学園小学校 平林 千恵
- 1.2 スマイルクラスとは？・・・・・・・・・・・・・・・・日進市立日進西中学校 河村 敏文

### 2. 学校全体での活用事例

- 2.1 スマクラを全校で取り組んでみた！・・・・・・・・日進市立相野山小学校 澤田 謙一
- 2.2 生徒の思いを学級の行動へとつなぐ学級づくりの実践 -スマイルクラスを活用した対話的な学級経営- ・・・・・・・・日進市立日進西中学校 岩本 光司

### 3. 実践者の声

- 3.1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・日進市教育委員会学校教育課 桃原 勇二

#### 3.2 小学校編

- 日進市立西小学校「当事者意識を高めた上での学級力会議」
- 日進市立東小学校「一人一人が主役の学級」
- 日進市立北小学校「学級力向上のための学級活動を行って」
- 日進市立南小学校「みんなで参加する学級づくり」
- 日進市立香久山学校「学級力向上プロジェクト 実践報告」
- 日進市立梨の木学校「互いの違いを認め、関わりあって伸びていく児童の育成」
- 日進市立赤池学校「全員参加の学級力会議」
- 日進市立竹の山学校「子どもたちが主体的に取り組む学級活動」

#### 3.3 中学校編

- 日進市立日進中学校「学級力による支持的風土の醸成」
- 日進市立日進東中学校「学級力を通して生徒と共に作り上げる集団意識」
- 日進市立日進北中学校「レーダーチャートを通して学級の課題の改善を図る」

#### 3.4 教員・児童生徒の「声」

4. スマイルクラスに関する Q&A・・・・・・・・・・・・・・・・大阪教育大学 向田 識弘

合同会社 KFT 小林 俊夫

## 日進市における学級力向上プロジェクトの意義と目的

愛知教育大学 磯部 征尊  
利晶学園小学校 平林 千恵

**愛知・日進市 学級力向上プロジェクト** [上]

**達成力・安心力など**

**クラスの状態、アプリで確認**

**全小・中学校 子ども自ら端末使い**

授業改善に取り組む上で、その支えになる学級づくり（主に学級活動）の充実に力を入れる愛知県日進市。1人1台端末を活用し、児童・生徒がクラスの状態をセルフチェックできるアプリ「スマイルクラス」などを市内全小・中学校（小学校9校・中学校4校）に導入した。データはウェブ上で共有し、学級担任が一人て責任を負わず学校全体や市教委で支援・サポートができるようにした。子ども一人一人の安全感を高め、いじめ・不登校対策の一助につなげたい考えた。この取り組みを上・下で紹介する。

**いじめ・不登校対策の一助に**

全国と同様に、同市でも若手教師が増えている。大卒を卒業したばかりの初任者でも、学校現場に着任すると35人以上のクラスをすぐに受け持つ場合がほとんどだ。その際、「学級目標の実現に向けてクラスを経営する」という視点は不可欠。それは教員一人一人の勤や経験に頼る部分が多かったといわれている。

しかし、その部分に課題があると考えた同市。コロナ禍以降、全国的に不登校の児童・生徒が増え続けている状態もきっかけの一つ。数値的に落ち着きを見

アンケート結果はレーダーチャートに反映され、学級に足りない部分の可視化もできる

第1回  
第2回

図1. 日本教育新聞（2025年1月6日掲載）

図1の記事をご覧ください。同記事（上）では、日進市の取組の一つとして学級力向上プロジェクトが紹介されています。各学校では、学級の課題を「スマイルクラス」で可視化し、子供同士や教師との「話し合い」を学びの中心に据える取組を進めています。同記事では、このような取組を継続することで、学級経営と学力向上を同時に実現しようとする考え方が紹介されています。

日進市では、従来の経験や勘に頼った指導から、データと対話に基づく学級づくりへと転換する点に、本プロジェクトの新規性があると言えます。

# クラスの課題 アプリで可視化 解決へ 学活中心に「話し合い」

昨年度からスタートした「学級力向上プロジェクト」。重点校に選ばれた学校が自校の実践内容を研究授業・研究協議会という形で公開し、市内でも先導的な役割を担ってきた。他校にもプロジェクトの目的や内容を十分に知ってもらうことがねらいだ。

同プロジェクトは2年目を迎え、本格的な取り組みがスタート。学級活動を中心に、市内全小・中学校で実践を積み重ねている。重点に置くのは、子どもたち

「スマイルクラス」は学級づくりに特化した数少ないアプリである。それを自治体が導入し、全小・中学校の足並みをそろえた上で実践に取り組んでいるのは大きな特色といえる。子どもたちが学級の課題を見つけて解決する「自走する学級」への「さらなる充実

## 「自走する学級づくり」に期待

磯部 征尊

愛知教育大学准教授

を期待している。「スマイルクラス」には、「ニコニコカード」（具体的な課題に基づいた活動例を紹介したカード）や「4ステップ事例集」などの他機能もある。それらを活用した日進市の取り組みは、とても参考になるだろう。

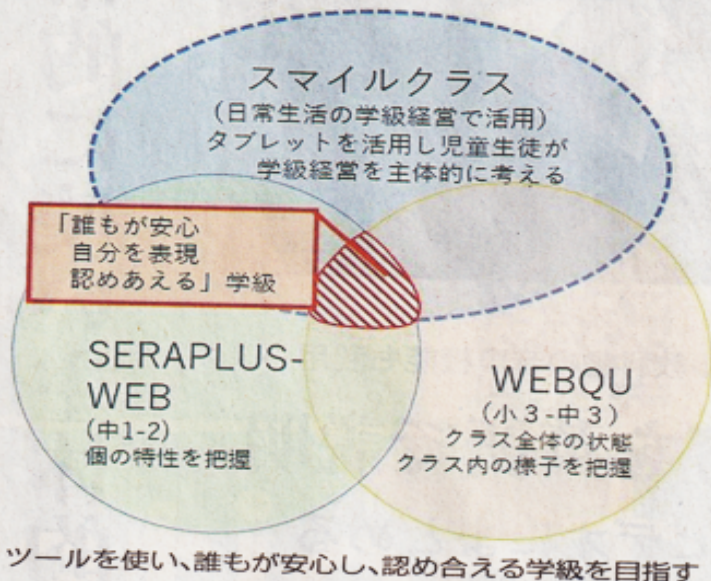


図2. 日本教育新聞（2025年1月13日掲載）

図2の記事をご覧ください。同記事（下）では、日進市教育委員会が中心となり、研修会や校内支援を通して全小・中学校を対象に取組を支える体制が紹介されています。これは、個々の教員の努力に任せるのではなく、市として学級力向上を「共通の課題」として位置付け、継続的に支援する仕組み作りの重要性を示しています。

以上を踏まえ、本プロジェクトは、①学級の状態を共通言語で捉えられるようにすること、②教師と児童生徒が協働して課題解決に向かう学習文化を育てること、③学校間・校種間で実践を共有し、市全体の教育力を高めることに大きな価値があると言えます。

# 学級力向上プロジェクト：データで育む、子どもが主役のクラスづくり

## 01 学級力とは？

**いじめや不登校を防ぐ、新しい「仲間づくりの力」。**

子どもたちが安心して過ごせる「支持的な学級集団」の醸成を目指します。



## 03 STEP 1 & 2: 診断と計画

**R: Research (診断) -**  
現状を客観的に把握する。

学級力アンケートで自分たちのクラスを自己評価し、結果を可視化します。



**P: Plan (計画) -**  
改善策「スマイル・アクション」を決める。

レーダーチャートを見ながら、伸ばしたい力と具体策を全員で話し合います。



## 02 プロジェクトの核心：R-PDCAサイクル

**子どもが主役のR-PDCAサイクルで学級を育てる。**

診断から改善まで、子どもたちが主体的に学級づくりを実践するプロジェクト学習です。



## 04 STEP 3, 4 & 5: 実行・評価・改善

**D: Do (実行) -**  
決められたアクションを日々実践する。  
授業や他の情報など日々の学習生活の中で意識的に取り組みます。



**C: Check (評価) -**  
取り組みの成果を振り返る。  
取り組みアンケートを実施し、レーダーチャートの変化から成果と課題を考えます。



**A: Action (改善) -**  
次のスマイル・アクションへつなげる。  
評価で見えた課題をもとに、次の改善アクションを計画・実行します。



## プロジェクトを支える重要ツール



**学級力レーダーチャート**  
学級の現状を客観的に把握し、伸ばしたい力と具体的な改善策を話し合います。

**はがき新聞**  
評価データだけでなく、子どもたちの意見を反映し、一人ひとりの成長を応援するツールです。

## 06 話し合い(スマイルタイム)成功の鍵

**司会は子どもたち**  
教員はファシリテーターに徹し、子どもたちの意見を尊重します。

**2つの「魔法のルール」**  
「全員が話す」「友だちを否定しないこと」で、誰もが安心して発言できます。



## 文部科学省が提唱する『学級経営の充実』

新しい学習指導要領の総則において、子どもたちの肯定的で支持的な人間関係力の育成が重視されています。いじめのない、支え合う学級づくりは、今まさに求められている教育の共通テーマです。

**学校の存在意義＝個と集団が響き合いながら、共に成長する場**



## Step 1: Research (診断)

# セルフアセスメント

学級力アンケートを用い、子どもたちが自分たちで学級の実態を『客観的』に捉えます。

教師が評価するのではなく、子ども自身診断する事が出発点です。

※GIGAスクール構想に対応し、ICT活用・自動集計も可能

ver.2.0

学級力アンケート

年 組 番

名前

◎ このアンケートは、私たちの学級をよりよくするためにみんなが意見を出し合うものです。それぞれの項目の4～1の数字のあてはまるところに、一つずつ○をつけましょう。

4：とてもあてはまる 3：少しあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

**目標をやりとげる力**

① 目標 みんなで決めた目標や得意で力を合わせてとりこんでいる学級です。 4 3 2 1

② 改善 自分たちの習字や生活をよくするための話し合いや活動をしている学級です。 4 3 2 1

③ 役割 係や当番の活動に責任を持ってとりこなす学級です。 4 3 2 1

**話をつなげる力**

④ 聞く姿勢 発生している人の話を最後までしっかりと聞いている学級です。 4 3 2 1

⑤ つながり 友だちの話を傾聴・応対・つなげたとし、つなげるように発言している学級です。 4 3 2 1

⑥ 積極性 話し合いの場、考えや意見を述べて出し合う学級です。 4 3 2 1

**友だちを支える力**

⑦ 支えない 勉強・運動・そらじ・給食などで、教え合いや助け合いをしている学級です。 4 3 2 1

⑧ 仲直り すなおに「ごめんね」と言って、仲直りができる学級です。 4 3 2 1

⑨ 感謝 「ありがとう」を伝えていく学級です。 4 3 2 1

**安心を生む力**

⑩ 認め合い 友だちのよいところやがんばっているところを伝え合っている学級です。 4 3 2 1

⑪ 尊重 友だちの心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級です。 4 3 2 1

⑫ 分断 たれでも過半数、グループになつたりすることが出来る学級です。 4 3 2 1

**きまりを守る力**

⑬ 学室 授業中にむだなしゃべりをしない学級です。 4 3 2 1

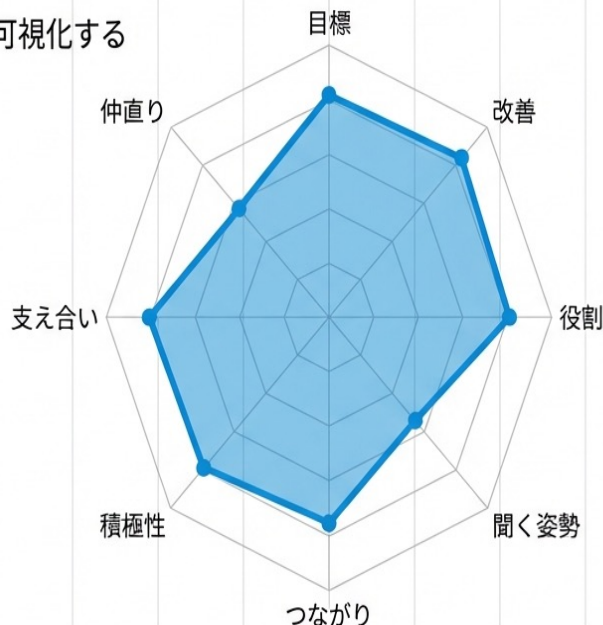
⑭ 生活 ううかやふんばい、あいさつをするなど、学級のきまりを守っている学級です。 4 3 2 1

⑮ 校外 校外ではひとあひやくにならないように考えて行動できる学級です。 4 3 2 1

### VISUALIZING THE INVISIBLE

## 学級力レーダーチャート

不可視な学級の空気を可視化する



アンケート結果をチャート化することで、クラスの『強み』と『課題』が一目で共有可能になります。これが対話の地図となります。

## Step 2: Plan (スマイルタイム)

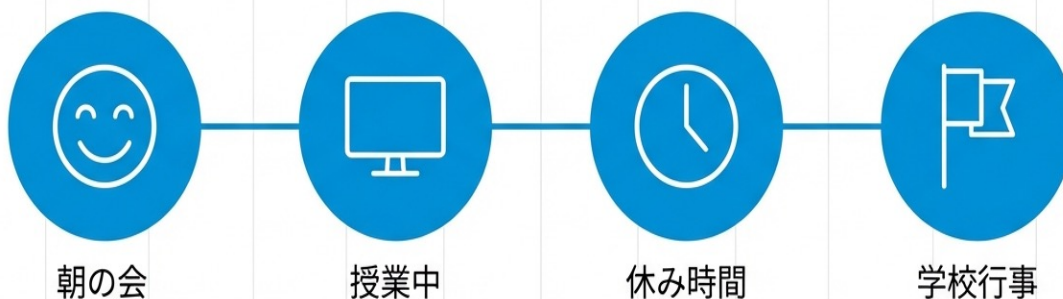


### 「よい学級とは、どんな学級？」

- レーダーチャートを見て話し合う
- 学級力を高める具体策を決める
- 合言葉は「みんなで決める」

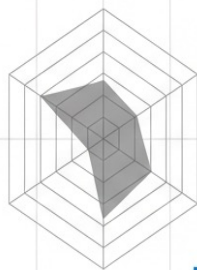
## Step 3: Do (スマイル・アクション)

計画した具体策（アクション）を日々実践します。



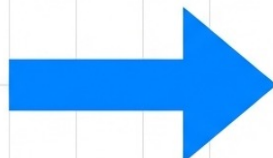
# 主体的に取り組む

## Step 4 & 5: Check & Action (改善)

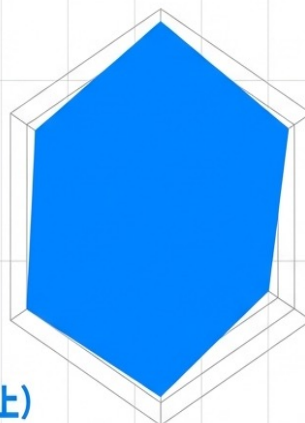


Before (Check)

第2回アンケートを実施し、  
チャートの変化を確認。



スパイラルアップ (らせん状の向上)



After (Action)

結果を見ながら改善策を考  
え、次のアクションへ。

THE VISION

# 学級みんなが一人ひとり 大切に合う新しい学級づくり

#いじめのない #明るくて楽しい #安心・安全

個と集団が響き合い、共に成長する未来へ。

## 1.2 スマイルクラスとは？

日進市立日進西中学校 河村 敏文

「子どもと先生が笑顔で学べる学級をつくりたい」—この思いは、日進市の教員が日々大切にしている願いであり、学級力向上プロジェクトを進めるうえでの原動力となっています。子どもたちが、自分の気持ちや意見を安心して伝えられる学級。そして教員が子どもたちの変化に寄り添いながら、共に成長できる学級をどう実現するか。その問いに対する一つの答えが、ICTを活用した学級づくり支援アプリ「スマイルクラス」です。現代の学校現場では、子どもたちの多様化が進み、学級の空気感や人間関係の変化も複雑さを増しています。学級の中で起きている“見えにくいこと”，例えば、「子どもたちの不安や孤立」，「人間関係のちょっとしたズレ」，「ふとした成長の兆し」等，どのように教員が捉え、支援につなげられるか。スマイルクラスは、そのような課題に対して、経験年数やスタイルを問わず、全ての教員が活用しやすいように設計されています。

スマイルクラスの代表的な機能である「学級力」は、子どもたち自身がクラスの状態を振り返り、6つの観点「達成力・規律力・自律力・安心力・対話力・協調力」から学級を振り返るアンケート機能です。アンケートの結果はレーダーチャートとして可視化され、教員は学級の傾向や変化を客観的に把握できます。これにより、教員の直感だけに頼らず、論理的な学級経営の判断が可能になります。また、「ニコニコカード」は、子どもたちが日常の中で感じた“ありがとう”や“うれしかったこと”を記録したり、共有したりする仕組みです。ポジティブな関わりを言語化し、学級内の信頼関係を育む取組は、子どもたちが互いの存在を認め合い、安心して過ごせる風土を創ります。さらに、スマイルクラスには、学級会の進め方や話し合い活動の支援に役立つワークシート、振り返りカード、目標設定シート等、日常の学級づくりを支える多様な教材やテンプレートが付属しています。これらは、教員の経験や校種に関わらず、誰もが「すぐに」使えるように設計されており、学級経営の省力化と質の向上を同時に実現します。特に、話し合い活動の進行や記録、振り返りの定着に悩む教員にとって、このようなツールは大きな支えとなります。

スマイルクラスの特長は、これらの機能が単独で完結するのではなく、相互に連動しながら「気づき（R）→対話（P）→行動（D）→確認（C）→改善（A）」という学級づくりのR-PDCAサイクルを支えている点にあります。例えば、セルフチェックの結果をもとに学級会で話し合いを行い、ニコニコカードの内容を朝の会で共有することで、子どもたちは学級の一員としての自覚を深め、よりよい関係づくりに主体的に関わるようになります。このようなプロセスを通して、教員は“指導する人”から“共に学級をつくる伴走者”へと役割をシフトしていきます。スマイルクラスは、教員が子どもたちの声に耳を傾け、共に考え、共に育つための“対話の共通指標や媒介”として機能します。ICTを活用することで、子どもたちは自分の思いを表現しやすくなり、教員はその声を見逃さずに受け止めることができます。

日進市では、スマイルクラスを全校的に導入し、学級力向上プロジェクトとして体系的な活用を進めています。学年や校種を超えた情報共有、専門機関との連携、現職教育への組み込み等、学校・行政・研究機関が一体となって取り組むこのプロジェクトは、単なるツールの活用に留まらず、学校文化の在り方を問い直し、持続可能な教育の構築を目指しています。

スマイルクラスは、ICTを活用しながら、子どもたちの声に耳を傾け、教員と共に学級を育てていく仕組みです。人と人とのつながりを大切にするこの取り組みが、「未来を見据えた学びの文化」を築くために、日進市が踏み出す確かな一歩となることを願っています。そしてこのガイドブックが、みなさんの学級づくりに新たな視点と勇気をもたらすことを心から期待しています。



「子どもと先生が  
笑顔で学べる学級を  
つくりたい」

## 子どもと先生が、共に成長できる場所へ

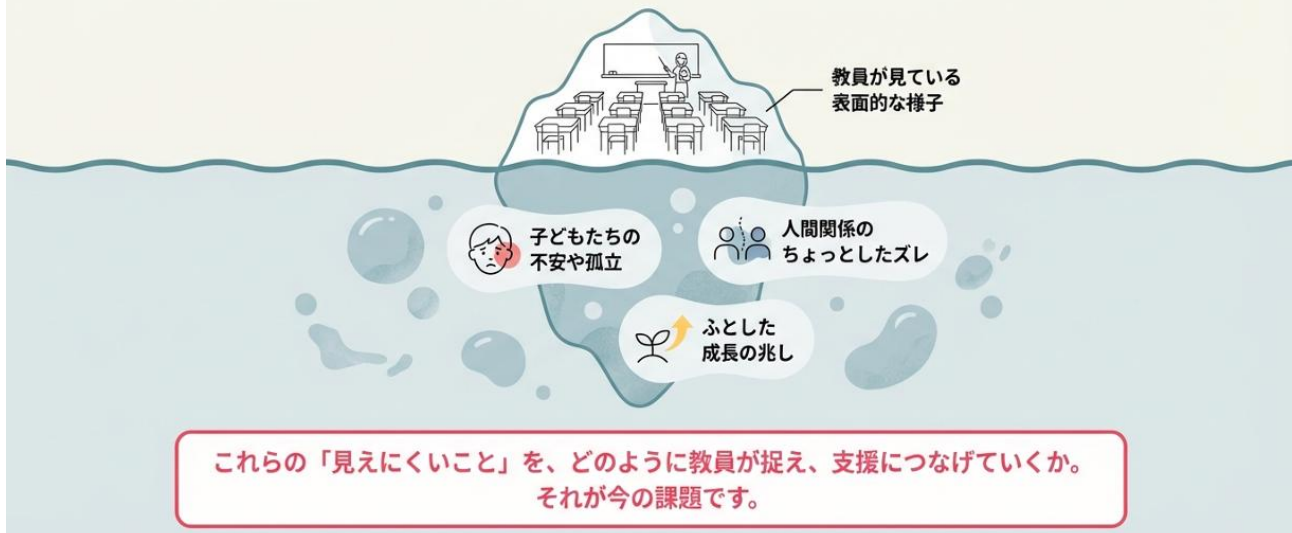
これは、日進市の教員が日々大切にしている願いであり、学級力向上プロジェクトの原動力です。

目指すのは、子どもたちが自分の気持ちや意見を安心して伝えられる学級。

そして、教員が子どもたちの変化に寄り添いながら、共に成長できる環境です。

## 現代の教室にある「見えにくい」課題

現代の学校現場では子どもたちの多様化が進み、学級の空気感や人間関係は複雑さを増しています。



## 対話の共通指標となる「スマイルクラス」

ICTを活用した学級づくり支援アプリ

### ● 経験年数やスタイルを問わない設計

ベテランから若手まで、全ての教員が活用しやすいインターフェース。

### ● 対話の媒介

教員が子どもたちの声に耳を傾け、共に考え、共に育つためのツール。



## 客観的なデータでクラスを見る：「学級力」

子どもたち自身がクラスの状態を振り返るアンケート機能。



## 学級を支える6つの観点



この6つの観点から、子どもたちは自分たちのクラスを多角的に振り返ります。

## ポジティブな関わりを可視化する：「ニコニコカード」



### 機能

子どもたちが日常の中で感じた「ありがとう」や「うれしかったこと」を記録・共有する仕組み。

### 影響

- ポジティブな関わり of 言語化
- 学級内の信頼関係の醸成
- 互いの存在を認め合い、安心して過ごせる風土づくり

## 学級経営の省力化と質の向上を両立する



**ワークシート**

学級会の進め方や話し合い活動の支援



**振り返りカード**

日々の気づきを定着させる



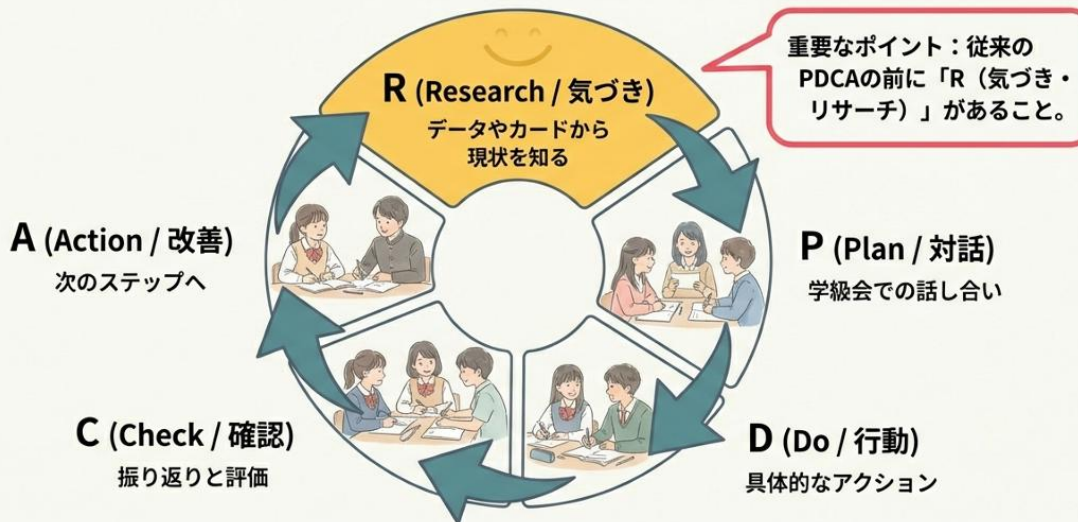
**目標設定シート**

クラスや個人の目標管理

### 「すぐに」使える

教員の経験や校種に関わらず、即座に活用可能なテンプレート。  
特に話し合い活動の進行や記録に悩む教員にとって、大きな助けとなります。

## 学級づくりのエンジン：「R-PDCAサイクル」



## 実践事例：サイクルが生み出す主体性

### 1. セルフチェック



学級力アンケートの結果を分析

### 2. 学級会



結果をもとに子どもたちが話し合い

### 3. 朝の会



ニコニコカードの内容を共有し、良い行動を広める

結果：子どもたちは学級の一員としての自覚を深め、よりよい関係づくりに主体的に関わるようになります。

## 校種を超えた「面」での育ち



スマイルクラスの理念は、一つの学年、一つの学校に留まりません。  
小学校から中学校へ。児童と生徒の連携を通じて、日進市全体で子どもたちを育みます。  
未来を見据えた「学びの文化」を、切れ目なくつないでいきます。

## 指導者から「伴走者」へ

これまでのイメージ  
(Conventional)



指導・牽引

スマイルクラス  
(New Model)



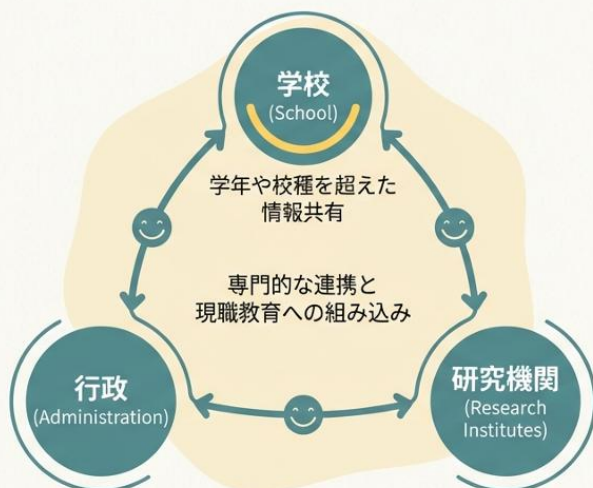
伴走・共創

SHIFT



先生は、前から引っ張るだけのリーダーではありません。私たちは「伴走者」です。  
子どもたちの変化に寄り添い、声に耳を傾け、共に成長する道りをつくります。  
命令ではなく対話を。指示ではなく共感を。

## 日進市モデル：組織で取り組む教育改革



- スマイルクラスを全校的に導入し、体系的な活用を推進。
- 単なるツールの活用に留まらず、学校文化の在り方を問い直す。

# スマクラを全校で取り組んでみた！

報告者：日進市立相野山小学校 澤田 謙一

## 1. 取組の目的

学校全体でスマイルクラスを活用することで、学級力会議で立てた目標に向けて児童一人ひとりが主体的に取り組もうとする態度を養う。

## 2. 取組の内容

### ■ 活動①：年間5回のスマクラWeek

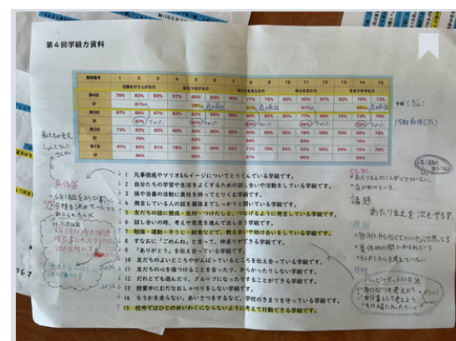
内容：2か月に1度「スマクラWeek」を設定し、その期間に各クラスで学級力会議を行う。あらかじめ校内の年間行事計画に組み込むことで、計画的にRPDCAのサイクルを繰り返す。

### ■ 活動②：教員用タブレットに「学級力」の共通チャンネル

内容：教員用のタブレットに共通チャンネルを作り、レーダーチャートや学級力会議の様子、児童の取り組みの様子を投稿することで情報共有を図る（写真）。

### ■ 活動③：スマクラ10分報告会

内容：「スマクラWeek」の後に職員で報告会を行う。共通チャンネルに投稿した内容の補足や、実際の児童の様子、その後の学級の変化などを口頭で伝え情報を共有することで、よりよい学級経営について再確認する。



## 3. 成果と課題

重点校として3年目を迎えた本校では、初年度より全学級での学級力会議を継続して行った。最大の成果は、会議の司会を児童が行うことで、自分事として考え、協力して話し合おうという気持ちが高まったことである。児童からは「次はこうしたい」「こうしたら良くなるんじゃないかな」という発言が見られ、学校生活の中に学級力会議が根付いたと感じる。

また、多くの学級で係活動を児童自らが考えて行っている。個人であったりグループで活動したりと様々で、児童は「自分は学級のために何ができるか」を考えて行動することができた。今年度から本校の現職教育のテーマは「自ら学びを求め、成長し続けようとする児童の育成」である。児童と一緒に授業を作っていく中で、児童からは「これを調べてみたい」と学びを求める姿や、学級の誰とでもグループを組み学び合う姿などが見られるようになった。学級に自分の居場所があるという安心感や所属意識が芽生えたと感じた。

一方で、振り返り活動が十分にできていないと感じる場面もある。目標に向けてよりよくしていくために、児童が互いに注意や提案をし合ったり、児童発案で学級力会議を設定したりといった行動が見られるようにしていきたい。



## 4. まとめ・今後の展望

スマクラを利用した3年間の活動を通して、定期的に話し合う機会を設定することで、児童が主体的に話し合い、前向きに学校生活を送ろうとする意識を醸成することができた。今後もスマクラを活用しながら、よりよい学級づくり、学校づくりを児童と共に目指していきたい。

# 生徒の思いを学級の行動へとつなぐ学級づくりの実践 — スマイルクラスを活用した対話的な学級経営 —

報告者：日進市立日進西中学校 岩本 光司

## 1. 取組の目的

近年、社会の多様化に伴い、学級経営の在り方も大きく変化してきており、これまでの学級経営は、教員の「経験」や「勘」に頼る部分が多く、特に若手教員にとっては、明確な指針を持たないまま日々の実践に向き合うことが負担となる場面が少なくなかった。また、長年の成功体験をもつベテラン教員においても、これまでの経験に基づく児童生徒像と現在の児童生徒像とのずれから、従来の指導方法がそのまま通用しにくくなるケースも見られるようになった。こうした状況を踏まえ、日進市では「誰一人取り残さない学級経営」の実現を目指し、学級の状態を客観的に把握できるアセスメントツール（スマイルクラス）を導入し、その結果を基に学級づくりを進める「学級力向上プロジェクト」を開始した。本プロジェクトは、児童生徒の声を丁寧に拾いながら学級経営ができる教員の実践力を育むこと、そして一人一人の違いを尊重した学級づくりを支える力を高めることをねらいとしている。さらに、児童生徒自身が学級の課題や強みに気づき、よりよい集団をつくろうとする活動に主体的に取り組む点も、本プロジェクトの大きな特徴である。これにより、心理的な安心感や仲間とのつながり、課題に向き合う力など、多様な側面での成長が期待される。

## 2. 取組の内容

### ■ 活動①：安心力を育む「感謝で咲く、感動の桜プロジェクト」

学級づくりの初期段階において、スマイルクラスの結果や学級目標に込められた思いを踏まえ、「新しい学級でまず育てるべき力」について検討を行った。その結果、協力や達成に向かう活動を支える基盤として、生徒同士が安心して関われる関係性や対話力の育成が重要であるという共通認識に至った。

こうした背景のもと、日頃から帰りのSTで実施していた「今日のありがとう」という取組を、学級全体で可視化し共有できる形に発展させたいという提案が学級役員から出された。そこで、感謝の気持ちを桜の花びら型のカードに書き、教室に掲示した桜の木に貼っていく「感謝で咲く、感動の桜プロジェクト」を実施した。なお、桜の木をモチーフとしたのは、3年1組のクラスカラーがピンクであり、生徒にとって親しみやすい象徴であることを踏まえたためである。

本活動は、日常の中にある感謝の場面に気付く視点を育てるとともに、それを「書いて共有する」ことを通して、生徒同士が互いの存在や行動を肯定的に捉える機会を生み出した。花びらが増えていく過程で、生徒からは「見ていると嬉しくなる」「自分の行動が誰かの役に立っているとわかる」といった声も聞かれ、学級の安心感を高める基盤づくりとして機能した。また、「卒業する頃には、この感謝の桜の木が満開になっているとよい」という生徒の言葉もあり、学級の成長を時間の経過とともに可視化していく象徴的な取組として位置づけられた。



## ■ 活動②：朝のSTを温かくする“あいさつしりとり”活動

活動①と同様に、対話力や安心力を育む取組を検討する中で、学級内では「日常のあいさつをより大切にしたい」という課題意識が共有されていった。学級会やスマイルクラスの結果からも、生徒たちの中に「友達同士で自然にあいさつが交わされる学級にしたい」という価値意識が芽生えつつあることを、教師は具体的に把握することができた。そこで、生徒たちは朝の登校時に互いに「おはよう」と声を掛け合うことを目標に、あいさつを意識した取組を開始した。しかし、声を掛けることへの抵抗感や照れが見られ、あいさつが特定の生徒に偏るなど、十分な定着には至らなかった。あいさつの大切さは理解しているものの、日常的な行動として学級全体に広げていくことに難しさを感じている様子が見えられた。



こうした状況を踏まえ、教師から、朝のあいさつを教師に向けた形式的なものではなく、生徒同士の関わりを重視した朝のあいさつの在り方を提案し、朝のSTに4人グループでしりとりを行い、語尾を「お」につなげて全員で「おはよう」とあいさつする「あいさつしりとり」を取り入れた。すると、朝の時間に「協力し合う」「声を掛け合う」といった肯定的な関わりを生み出し、生徒同士の心理的な距離を和らげる効果をもたらした。普段あまり会話のない組み合わせにおいても、言葉遊びを通して自然な交流が生まれ、学級の安心感を高める取組として機能している。また、生徒からは「朝から笑顔になれる」「話しやすい雰囲気になる」といった声も聞かれ、心理的に温かいスタートを切る習慣として定着しつつある。

## ■ 活動③：行事期に向けた“思いのベクトル合わせ”の学級会

行事に臨むにあたり、生徒主体で「どのような姿で取り組み、どんな行事にしたいか」を話し合う時間を設けた。これは、自分たちで立てた目標や目的を達成するために必要な価値観や行動の方向性を共有し、学級全体として同じベクトルをもって行事に向かえるようにする取組である。こうしたプロセスそのものが、生徒の達成力を育む重要な基盤ともなっている。



話し合いでは、「全員で頑張る行事にしたい」という意見が多く出され、互いを励まし合い、失敗しても笑って受け止められる温かい雰囲気づくりが大切だという共通理解が生まれた。また、「感動を味わいたい」という思いから、ためらわずに意見を出すこと、その際の聞く姿勢や感謝の気持ちを大切にしようという価値が整理された。

こうした価値観の共有による成果は、活動場面に表れた。体育大会の長縄練習では、生徒たちが練習後に回し手へ「お疲れ!」「ありがとう!」と声を掛け合ったり、さらに「もう少し早めに回してほしい」などのよりよくするための建設的な提案をしたりと、互いを尊重しながら自然に伝え合う姿が見られた。合唱コンクールでは、生徒たちがパートリーダーや指揮者・伴奏者へサプライズの寄せ書きを企画し、感謝の思いを形にしようと学級全体で取り組む姿も見られた。

結果として、合唱コンクールでは優秀賞、体育大会では学年優勝という成果を収めた。しかし、生徒たちが大切にしていたのは結果以上に、掲げた目標に向かって全員で努力し、支え合いながら達成を積み重ねていく過程そのものであった。振り返りでは、挑戦の日々や仲間と協力した実感を語る生徒が多く、事前の方向性の共有が、生徒の主体性、協働性、そして達成力を確かに高めた。

こうした姿は、行事前の学級会だけによって生まれたものではない。日常の学級生活の中で、生徒が自分たちの思いや願いを言葉にし、それが話し合いを通して学級の行動に反映される経験を重ねてきた

ことが背景にある。自分の考えが学級づくりに生かされるという経験の積み重ねは、生徒一人一人の学級への関わり意識を高め、学級全体として「同じ方向を向いて取り組もう」とする意識を育ててきた。こうした日常の積み重ねがあったからこそ、行事という特別な場面においても、互いを尊重しながら協力し、目標に向かって行動する姿が自然に見られたと考えられる。

### 3. 成果と課題

#### 3-1 成果

##### (1) 生徒主体の学級づくりと教員の学級理解の深化

スマイルクラスの導入により、学級の強みや課題を、生徒や教員の主観だけでなく、客観的データから把握できるようになった。声がデータとして可視化されたことで、生徒一人一人が学級の現状を理解しやすくなり、話し合いの場において「自分たちで決め、実行していく」という姿勢が高まった。このことは、生徒の主体的な学級づくりを支える土台となっただけでなく、教員の学級理解の視点を大きく広げる契機にもなった。特に、スマイルクラスの結果と学級会での対話を通して、生徒たちがその時々で考えている価値意識や方向性を、教員が事前に具体的に把握し、適切な支援ができた点は重要である。生徒たちの声を根拠にした学級理解を基盤としたことで、教員からの提案は「一方的な指示」としてではなく、学級全体の改善に向けた「建設的な選択肢」として受け止められ、生徒の納得感を伴った主体的な実践へとつながった。さらに、生徒一人一人の活動が主体的になることで、行事や日常の活動においても、互いの意見を尊重しながら方針を決め、協働的に行動する場面が増えるなど、主体性と協働性が明確に育まれた。

このように、スマイルクラスは「生徒の主体性」と「教員の学級理解」の両面に変容をもたらし、学級づくりの質を高める上で重要な役割を果たした。

##### (2) 心理的安全性と所属感の向上

スマイルクラスの結果を踏まえて実施した学級会は、生徒が安心して意見を述べられる環境づくりに大きく寄与した。学級会では、学級の状態や目標について対話し、「よりよい学級にするために何ができるか」を率直に語り合う機会を重ねた。その結果、生徒の発言が徐々に活発になり、自分の意見を受け止められる経験が増えたことで、心理的安全性の向上が見られた。また、学級会で出された意見を日常の活動へ反映したことは、学級内の支持的風土の形成に効果的であった。「励ましの声掛けを増やす」「感謝を伝える場をつくる」といった生徒発案のアイデアを、実際の生活場面で生徒自身が主体的に取り組んだことで、肯定的な関わりが自然に広がり、日常的な行動として定着していった。こうした経験は、生徒に「自分たちの意見が学級運営に生かされている」という手応えをもたらし、学級づくりへの参画意識を高めた。また、肯定的な関わりが増えたことで、意見を出す際のためらいが減少し、互いの発言をまず受け止めようとする姿勢が見られるなど、関わり方の質にも変化が生まれた。これらの変化は、心理的に安全で、所属感を育む学級環境の形成を下支えするものであったと考えられる。

#### 3-2 課題

##### (1) スマイルクラスを手段として活かし、学級目標を基盤にした柔軟な学級づくり

スマイルクラスによって得られるデータは、学級の状態を理解するうえで有効な手がかりとなるが、データ収集そのものが学級改善を生み出すわけではない。大切なのは、得られた情報をどのように解釈し、日々の指導や支援に結びつけていくかという教員の判断である。そのため、ツールを導入・実施することが目的化しないよう、生徒・教員ともに「なぜデータを使うのか」という活用目的を継続的に明確にしておく必要がある。また、レーダーチャートは学級の状態を可視化するうえで有用である一方、その観点が学級会の議論を縛ってしまう可能性がある。レーダーチャートの項目に沿って課題を探ることが中心になると、生徒自身が年度初めに掲げた「学級目標」から出発し、自由に課題を捉えたり、新たなアプローチを考えたりする機会が狭まってしまふ恐れがある。本来、学級づくりの核は、「どんな

学級を目指したいか」という生徒自身の願いに基づき、柔軟に議論を深めていくことにある。したがって、スマイルクラスはあくまで学級理解を支える材料として位置づけ、生徒一人一人が自分たちの学級目標に立ち返りながら、多様な視点で話し合いを広げられるよう配慮することが求められる。

#### (2) 個のサインを見落とさない支援の視点

学級全体の雰囲気がよくなることで、自ずと肯定的なデータが示される場面が増えるが、かえって生徒一人一人の悩みや不安が見えにくくなるリスクもある。集団の大勢を占めるデータに意識を向けすぎると、個別に支援を必要とする生徒のサインを見落とす恐れがあるため、教員は統計的な平均値に頼りすぎず、生徒一人一人への丁寧な観察、支援を継続することが求められる。

### 4. まとめ・今後の展望

本研究で取り上げた3年間の取り組みを振り返ると、学級力の向上とは、単に「行事を成功させる」「活動を円滑に進める」といった表面的な成果を目指すものではなく、学級そのもののウェルビーイングを高める営みであることが明確になった。生徒が自分の思いや考えを表現し、それが仲間に受け止められ、学級の在り方や日常の行動に反映されていく。この循環が重なることで、生徒は「この学級で安心して過ごせる」「仲間とともに力を発揮できる」という感覚を徐々に育んでいく。こうした心理的に支え合う基盤をつくることこそが、学級力を育てる中心的な意義であると考えている。

今後の展望としては、生徒の主体的な参画と教員のデータ活用能力の双方を高めながら、「自分たちの学級を自分たちでつくっていく」という文化を、日常の学級生活の中により深く根付かせていくことが求められる。そのため、生徒が「もっとこうなったらいい」という思いや願いを日常的に語り合い、学級会や日々の活動を通して実際の行動へとつなげていく学級づくりを継続することが重要である。また、スマイルクラスのデータを学級全体の傾向として捉えつつ、数値や平均値にとらわれすぎず、生徒一人一人の小さな変化やサインに目を向け続ける視点が、今後の学級経営を支える要点となる。学級が生徒一人一人にとって安心して過ごせる居場所であり、仲間とともに挑戦し成長していきたいと思える空間となるよう、本プロジェクトで培われた実践を基盤に、学級のウェルビーイングを軸とした取組を今後も深化させていきたい。

# 国交付金事業としての取り組み —スマイルクラスを中心として—

日進市教育委員会 学校教育課 学校教育課

## 1. 本事業の背景と目的

学級は、児童生徒が学校生活の大半を過ごす最小単位の集団であり、その安定は、安心して学び合える環境づくりの出発点となる。本市では、いじめや不登校の増加という全国的な課題に対し、学級経営の安定が学校教育の基盤となることに着目した。

岩田憲二教育長が掲げる「だれひとり取り残さない教育」の実現に向け、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、令和6年度から令和8年度までの3か年事業として本事業に取り組んでいる。本事業は、「スマイルクラス」「WEBQU」「クレペリン検査（SERAPLUS-WEB）」の三つの取り組みを、単独ではなく複合的・一体的に活用することを目的とした学級経営支援の取り組みである。

本事業の根底にあるのは、学級を固定的な枠組みとして捉えるのではなく、日々変化し成長する生きた集団として捉える視点である。小さな変化に気づき、日常の中で丁寧に整えていくことが、結果としていじめや不登校の未然防止につながると考えている。

### 事業概要【いじめ・登校支援事業】

～デジタルに“あたたかみ”を加え「誰もが安心・自分を表現・認めあえる」学級経営をサポート～

自治体名	愛知県日進市	人口	93,910人	事業費	26,715千円
事業概要	教員の「勘」や「経験」に頼っていた学級経営に、基礎データとして子どもの特性やクラス状態をデジタル化で共有する。また、学級経営に必要なクラスの状態を可視化する。これらのデータを活用しつつ、子どもたち自身が学級の様子を自己評価し、教師と子どもたちが協力して学級づくりを行う。 ⇒基礎データによる学級づくりにより、子どもの安心感は、結果としていじめ・登校支援へつながっていく。				
具体サービス	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【学級経営のための基礎データ】</p> <p>①WEBQU(小3-中3:年2回) 学級状態、学級での児童生徒の様子を把握する。</p> <p>②SERAPLUS-WEB(SKK式クレペリン検査)(中1-2:年1回) 心の成長段階である中1-2を対象に、作業検査法で個の特性を把握する。</p> <p>【より良い学級づくりのための分析可視化ツール】</p> <p>③スマイルクラス(全小中) 学習用タブレットにより、児童生徒の意見を質的・量的にデータ分析・可視化。学級経営を児童生徒が主体的に考える。</p> <p>【学級経営をDXでサポート】</p> <p>「誰もが安心・自分を表現・認めあえる」学級経営のため ①～③のデータを活用し、教師と子どもたちが協力して学級づくりに取り組む。</p> <p>WEBでデータ管理・共有=担任だけでなく、学校全体・市教育委員会でもサポートが可能!!</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;"> <p><b>スマイルクラス</b> (日常生活の学級経営で活用) タブレットを活用し児童生徒が学級経営を主体的に考える</p> <p><b>SERAPLUS-WEB</b> (中1-2) 個の特性を把握</p> <p><b>WEBQU</b> (小3-中3) クラス全体の状態 クラス内の様子把握</p> <p>「誰もが安心 自分を表現 認めあえる」学級</p> </div> </div>				
主なKPI	<p>【アウトカム指標（活動指標）】</p> <p>①WEBQUのアクセス件数 ②SERAPLUS-WEBのアクセス件数 ③スマイルクラスのアクセス件数</p> <p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①生徒の満足度（SERAPLUS-WEB） ②児童生徒の満足度（スマイルクラス） ③不登校児童生徒数の人数 ④いじめの認知件数</p>				

図1 国交付金申請時の本事業概要

## 2. 『健康管理』の考え方で本事業をとらえる

本事業で導入している各ツールは、学級を健やかに保つという健康管理の考え方で整理することができる。

スマイルクラスは、学級の状態を日常的に確認する体温測定のような存在である。児童生徒の感じ方や思いを可視化し、学級の小さな変化に気付くことで、状態が大きく崩れる前に整えていく日常観察的・予防的アプローチに位置付けられる。

一方、WEBQU やクレペリン検査は、定期健康診断や CT/MRI 検査のように、専門的な視点から状態を詳しく把握するための専門的・診断的アプローチである。日常の関わりの中で気になる点が見られた場合に、客観的なデータを基に状況を把握し、今後の関わり方や支援の方向性を検討するために活用することが出来る。

これら二つのアプローチを適切に使い分けることが、本事業の大きな特徴である。日常的な確認と予防を基本としつつ、定期的な専門的な診断を行うことで、児童生徒が主体の学級経営が実現すると考える。

## 3. スマイルクラスの役割 — 日常の学級づくりの中核

スマイルクラスは、本事業の中核を担う、日常の学級経営と最も密接に結び付いたツールである。学習用タブレットを活用し、児童生徒一人一人の感じ方や考えを簡単なアンケートとして集約・可視化することで、学級の状態を見える形で捉えることが可能となった。これは、学級の雰囲気や人間関係を教員の感覚だけに委ねるのではなく、共通の材料として共有するための重要な手段である。

スマイルクラスの第一の役割は、児童生徒自身が学級経営に主体的に関わる土台をつくる点である。スマイルクラスでは、集計された結果を教員だけが確認するのではなく、学級会等の場で児童生徒自身が目にし、意見を交わす。「思っていたより良い結果だった」「ここは改善できそうだ」といった率直な声を基に、どうすればより良い学級になるのかを考える過程そのものが、学びとなる。

こうした話合いは、単なる反省会ではなく、学級の現状を共通理解とした上で、前向きな改善策を考える経験となり、互いを認め合い、合意形成を図る力を育てることに繋がる。その積み重ねが、学級の自己回復機能を高め、トラブルが大きくなる前に児童生徒同士で調整が図られる集団へと成長していくと考えられる。

第二の役割は、学級の小さな変化や揺らぎに早期に気付く点にある。日常生活の中では、明確なトラブルとして表面化する前段階に、必ず何らかの兆しが現れている。その兆しを捉え、学級全体で立ち止まり振り返る機会を生み出すことに、スマイルクラスを活用する大きな意義がある。

第三の役割は、学級経営を支える対話の起点となる点である。スマイルクラスによって得られたデータは、教員も児童生徒の様子を振り返る際の客観的な手掛かりとなる。「なぜこの結果になったのか」「この変化の背景には何があるのか」と問い直すことで、児童生徒への理解がより深まっていく。また、学級全体の結果を基にした声掛けや

働き掛けは、特定の児童生徒を過度に意識させることなく、全体への指導として行うことが可能となる。

さらに、スマイルクラスを継続活用することで、学級の状態を点ではなく経過として捉えることが出来るようになる。前回との比較や変化の傾向を確認することで、取り組みの成果や課題が見えやすくなり、次の実践へとつなげる視点が生まれる。これは、教員の経験年数にかかわらず、学級経営を振り返り、改善していくための支えとなる。

このように、スマイルクラスは、体温測定のように日常の変化を捉え、予防的に学級の状態を確認する存在である。WEBQU やクレペリン検査といった専門的・診断的アプローチを生かすための土台としても、スマイルクラスによる日常的な対話と振り返りが役に立つと思われる。

#### 4. WEBQU・クレペリン検査の役割 — 専門的視点による支援

WEBQU は、年 2 回実施する調査により、学級全体の状態や児童生徒一人一人の適応感を客観的に把握するツールである。日常の様子だけでは見えにくい人間関係や心理的側面を数値として捉えることが可能となった。

中 1、中 2 対象に実施しているクレペリン検査 (SERAPLUS-WEB) は、個の特性を把握するための専門的な検査である。特に、丁寧な関わりや個別の支援が求められる場面において、指導や支援の方向性を考える際の重要な参考資料となる。

これらのツールは、日常的に常用するものではない。スマイルクラスによる日々の学級づくりを基本とし、その中で得られた気付きや違和感を、WEBQU やクレペリン検査によって客観的に確認するという位置付けである。

#### 5. 学級経営を支える伴走型の体制

本事業のもう一つの重要なポイントは、学級経営を担任一人に任せきりにしない体制づくりにある。各種データはクラウド上で共有され、市教育委員会も児童生徒の状況を把握することが可能となった。

これにより、担任が一人で悩みを抱え込むのではなく、必要に応じて組織的な助言や支援を受けることができる。学級経営を個人の努力に委ねるのではなく、組織で支える仕組みへと転換していくことが、本事業の目指す姿である。

#### 6. おわりに

本事業により、教職員一人一人が、スマイルクラスを日常の学級づくりの起点として活用し、その中で生まれた気付きや問いを、WEBQU やクレペリン検査の結果と照らし合わせながら次の一手を考えていくことが可能な状態となっている。

本事業を通して、データに基づく根拠ある判断と、児童生徒に寄り添う温かな関わりをどのように両立させていくのかという難しい課題について、市教育委員会としても各学校・各学級と共有し、サポート体制を継続していきたい。

## 当事者意識を高めた上での学級力会議

日進市立西小学校

### 1 学級力を始めたころの学級の様子

6年4組は静かで大人しい児童や意見や考えに自信をもって発言することが難しい児童が多い。また、班での話し合いの場面においては、他の児童と自分の意見を合わせたり、話し合うことに意欲的な態度で臨んだりする児童が少ない。よって、学級力を向上させるための会議（以下、学級力会議）を本学級で進めていくことは難しいと感じた。また、学級内では児童が小グループを多く形成している実態が見られて、「自分たちがよければいい」という考え方をもっているようにとれるような行動や発言が多くあるように感じていた。本実践でも、最初の頃は自分たちには関係ないという態度が多く見られ、会議の内容を自分事と捉えて話し合う態度を育てることが課題と感じた。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

#### (1) 話し合い活動の場面での手立て

どんな話し合いのテーマでも「自分の意見をもたせること」で、当事者意識を高めようと心掛けた。本実践だけでなく、日常の様々な課題に当事者意識をもって考えられるようにさせたいと思い、そのために多くの授業でペアや班などの形式で、自分の意見や考えを話す時間を設けた。

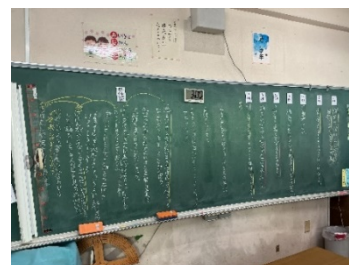
#### (2) アンケートの内容の作り替え

アンケートの内容を6年4組用に作り替えることにした。質問内容を考える際には児童の考えを聞き、教師主導で作られたものにならないよう気を付けた。各班でどの力についての質問を考えるかを決めて、スマイルクラスの基本質問よりも本学級の実態に合った内容や文言になるように考えさせた。

### 3 実際の様子

アンケートの内容を考えさせたことで、本実践への意欲が高まった。また、本学級の実態から考えたアンケートに答えさせたことで、学級の実態を細かく分析することが出来て、これから高めていくべき力についてさらに明確に捉えることができた。

学級力会議では、学級委員が司会を行い、4人ごとの班での話し合いを行い、意見を言いやすい雰囲気を作った。話し合いの中では、リーダーとなる児童が、発言することが苦手な児童にも「～さんはどう思いますか」と、意見を求めて聞く姿が見られた。学級全体の話し合いになると、発言をする児童は限られてしまったが、生活班での話し合い活動を行わせたことで、結果としてより多くの意見を取り入れることができた。具体的にどんな取り組みをしていくのかを考える場面では、簡単に実践できるものから、一人一人が「こういう意識をもつといいのでは」というような意識を変えていこうという意見も出た。今の学級の状態から、よりよい方向にみんなで変容させていこうという意識を強くもつことができた。



### 4 実践を続けた後の学級

学級の雰囲気を自分たちで変えようという意識をもつ児童が増えた。日頃の授業の中でも、「～さんはどう思いますか」と問いかけたり、困っている子がいたら、周りで声を掛けたりするなど、学級力を高めようと自ら働きかける姿があった。学級力会議で決めたことをやり遂げようと率先して行動する姿も増えたので、これからも児童の自ら成長していこうとする力を高められるよう、学級力の向上を目指して日々指導を進めていきたい。

## 一人一人が主役の学級

日進市立東小学校

### 1 学級力を始めた頃の学級の様子

本学級は、元気で明るく、個性的な児童が多い。また「誰かのために頑張りたい」「困っている人がいたら助けたい」と思っている児童も多い。

一方で、各々の「こうしたい」や「こうあるべき」「こうした方がいい」の意見がぶつかり、話し合いをしても折り合いがつかないことがあった。

そこで、学級力向上プロジェクトを基に「自分たちの学級をよくするのは自分だ」と実感できる学級を目指して取り組んだ。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

「取り組みの内容」よりも先に、まずは「心構え」を学級全体で共有したり、確認したりした。子どもたちと一緒に「どんな学級でありたいか」「どんな言動をすると、学級目標に近づくことができるのか」「どんな未来の自分でありたいのか」を考えた。その上で「どんな学級がよりよいか」を話し合い、その考えを学級活動として実際に取り組むことにした。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

学級で集団生活をしていく中での困りごとや改善していきたいことを聞く機会を設けた。そこで出た意見を学級会の話題として取り上げた。

その後「私も、みんなに提案したいことがある」と次々に提案する児童が現れるようになった。

### 4 実際の様子

児童たちは、自分たちで決めたことに責任をもち、思い通りにいかないときも諦めずに取り組んでいた。困っている友達を助ける、みんなでよりよくしようとする姿が見られた。

### 5 実践を続けた後の学級の様子

何か学級として困ったことがあれば、自分たちで話し合い、解決策を考える風潮が生まれた。また、他責をする児童がいなくなった。常に「自分に何ができるのだろうか」と考える児童が増え、児童一人一人がリーダーシップを発揮している様子が見られた。

以上のことから「自分たちの学級をよくするのは自分だ」という思いが育っていることを強く感じた。

## 学級力向上のための学級活動を行って

日進市立北小学校

### 1 学級力を始めた頃の学校の様子

児童は、自身に与えられたことはきちんとやることはできるが、何を頑張っていけばよいか、明確にできていなかったり、自分事としてとらえていなかったりしていた。学級の中で、学級をよりよくしたいと思っている児童は一部であり、他人事のように感じているようだった。また、その中で、自分勝手な行動を繰り返し、自分の学級のことを省みない児童も多くいた。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

「自分たち」を意識させてレーダーチャートを見たり、話し合わせたりした。教師の思いが先行しないよう、司会を児童が行ったり、児童の言葉で話し合いを進めたりした。また、話し合った内容を常に掲示して視覚化することで、話し合い活動後でも、自分たちで問題意識をもつことができるようにした。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

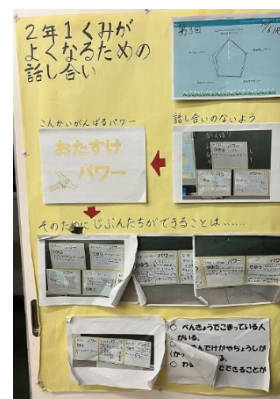
初めに、個の意見が活かされるよう、ワークシートを配付して、自分の考えを書かせた。そして、教師がねらっていることへと導くのではなく、児童が感じていることを児童の声で表した。学級で何に取り組んでいくか決める時も、安易に多数決で決めるのではなく、考えを組み合わせたり、良さそうなところをピックアップして繋げたりして、児童が納得できるような形になるように心掛けた。

### 4 実際の様子

初めは、自分本位の考えを述べるが多かったが、他の人のことにも目を向けさせるよう促すことによって、視野が学級全体へと向くようになった。

話し合いについては、レーダーチャートがあることによって、何をテーマに話し合うかの的をしばりやすく、課題も見つけやすかった。

学級のことを一人一人が考えたことにより、今、自分の学級にはどんなことが必要なかを、自分事として考え、積極的に話し合っ自分たちで作り出すことができた。



### 5 実践を続けた後の学校の様子

「自分は」ではなく「自分の学級は」ということを、初めに意識付けしたことによって、学級会を行った後の1～2週間は、自分たちで決めたことを意識しながら生活できていた児童が多くいた。その後も、高い意識が継続していた児童もいた。その一方で、高い意識を持続させることが難しい児童も多くいた。どの学級も意識を高くもち続けることが困難だととらえており、そのための手段を講じていくことが課題となっていく。

## みんなで参加する学級づくり

日進市立南小学校

### 1 学級力を始めた頃の学級の様子

本学級は4月当初から明るく、何事にも盛り上がることのできる児童が多くいる印象であった。行事にも積極的に取り組み、男女の仲も比較的よかった。

しかし、まだ6年生としての自覚は乏しく、自分さえよければいいという児童がほとんどであり、指導をしても「怒られた」しか残らず、指導の結果が行動に反映されている様子は見られなかった。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

学級力アンケートの結果を可視化することによって現状を把握させ、当事者意識を高めた。また、目標に対して「意識している児童」と「意識していない児童」がいるということを周知した。そして、数値の変化をきっかけに、まずは学級に貢献するために自分ができることを考えさせた。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

1か月間のクラス目標を掲げた後に、それを達成するために自分自身ができることは何かを個人で考えさせた。自分ができる目標を1週間ずつ振り返りさせることによって意識付けをさせ、自分ががんばったという達成感も味わせた。

### 4 実際の様子

学級力アンケートの結果を可視化することで、自分たちに何が足りないかなど、現状を受け止め、率先して話し合っている様子がうかがえた。課題を把握することで目標にするべきことが明確になった。各グループの結論はさまざまだが、うなずきながら発表を聞く児童が多くいた。聞く姿勢も学級会を通して成長している様子であった。

クラス目標達成のために個人目標を考える場面では、グループの意見を参考にして考えている児童がいた。繰り返し行う中で、1か月後の学級力アンケートで数値が変化した。その変化がまた次のクラス会議の話題となっていった。

### 5 実践を続けた後の学級の様子

学級の何が課題なのか、自分以外の方が現状をどのように感じているのかを知ることで、全員が当事者として話し合いに参加している。大切なことは、できている人が損をすることを伝え、あまり意識していない児童はどうすれば学級に貢献できるのかを真剣に考えることができたことである。意識している児童には、自分たちが損をするなら、できていない人に対しての行動を考えさせることで違った形で貢献しようとしている姿が見られるようになった。

まだ何人かの児童は自分優先で考え切れていない場面はあるが、少しずつ変化は感じられるので、今後も実践を続けていく。

学級目標達成シート 9月バージョン

今月の目標  
ON・OFFの切りかえ授業モードになる

これを達成するために

自分の目標  
…学級のために自分ができること、自分の課題などを具体的に書きましょう。

放課後と授業中の切りかえ

週間振り返り(◎、○、△、×で評価をしましょう)

日付	評価	振り返り
9/22	○	授業中少し方々児童の心があつたのでそそぎほほよくして授業をしたいです。
9/29	◎	前回の振り返りで書いていたことが、ほぼかんたんできてきたと思います。
10/3	◎	今月で書かないよりは多量もかしてきたいです。

今月のふり振り返り(自分が成長できた点、目標にどれだけ近づけたか、来月の課題など)

自分でも責任がなかな、授業中の切りかえは多少基本もしていませんが、自分では完璧にできたと思います。来月の目標も達成しつつ、今月の目標の切りかえも意識して、そそぎがたりまもふりしてきたいです。

## 学級力向上プロジェクト 実践報告

日進市立香久山小学校

### 1 学級力を始めた頃の学級（学年・学校）の様子

- ・漠然と「いいクラスにしたい」とは思っていたが、どうしたらよいかわからず、手探りな状態であった。
- ・まとまりがなかったわけではないが、声を掛けても1回では着席しない児童がいた。
- ・「クラス」としての課題が何か意識できなかった。話し合いは「クラス」ではなく「個人」の課題に目が向きがちであった。
- ・「自分たちの学級であり、先生の学級ではない」ということを、常に言い続けた。しかし、担任の様子を伺い、「これを言ったら正解だろう」といった探りがあった。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

- ・帰りの会で現状を把握する時間を作った。
- ・毎回データを視覚的に掲示し、アクションとアンケート結果を各自に配付し、グラフから読み取れることを各々で考えられるようにした。
- ・クラス内に「プロジェクトチーム」を立ち上げ、ポスター作りなど行った。
- ・声掛けの主語を「個人」ではなく「クラス」にするように意識した。
- ・アンケートの結果や個人が思っていることをワークシートにまとめ、記録として残していった。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

- ・多くの意見を達成できるように折衷案を考えたり、決めたこと以外も意識するよう話をしたりした。
- ・匿名の自由回答欄を作り、その意見について全員で考えた。
- ・個の意見を紹介したり、一つ一つ確認したりした。
- ・意見集約・共有のアプリ（ふきだしくん）を使って、個の意見を全体共有した。

### 4 実際の様子

- ・学級委員が主体で会を進めたが、話し合いに入れる児童と入れない児童がいた。
- ・班を作り、アクションを考えることができた。
- ・「伸ばしたい力をどう高めるか」の具体案が担任も思いもよらない案が出てきて面白かった。児童の柔軟な考えを知ることができた。
- ・児童が主体だったので、自分事としてとらえることができ、課題解決に向けて一生懸命意見を出したり、まとめたりする姿が見られたが、毎回時間がかかりすぎる。

### 5 実践を続けた後の学級（学年・学校）の様子

- ・目指すべき方向が定まったので、いい方向に明確に変化した。自分が何をすべきか、クラスで何をすべきかが明確になり、全員が同じ方向を向けるようになった。
- ・自分たちで決めたことだから、全員で動いたり、声を掛けたりする姿が増えた。
- ・自分たちでクラスを動かしているという実感があり、嬉しそうだった。
- ・自分のことだけでなく、誰かをフォローする姿が増えた。
- ・前回課題だった力が上がっていると一定の達成感を感じていた。
- ・仲間の意見に耳を傾けようとする児童が増えた。

## 互いの違いを認め、関わりあって伸びていく児童の育成

日進市立梨の木小学校

### 1 学級力を始めた頃の学級の様子

- ・ 仲のよい一部のメンバーだけの世界で行動していることが多かった。
- ・ 間違いや失敗を責めたり、認めなかったりする雰囲気があった。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

- ・ 友達の思いや考え方の違いに気付き、自分が学級のために何ができるかを考えさせた。
- ・ スピーチ活動を継続的に計画し、自分の意見を伝えるだけではなく、他者の意見を聞き合い、認め合う活動を実施した。
- ・ サークル活動として、得意なことを調べ、発表する活動を実施した。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

- ・ 毎朝、スピーチ活動を実施し、サークル活動を学活の時間に実施した。これらを継続的に行うことで、一人一人の個性（興味関心をもっていること、得意なこと、考え方、感じ方）の違いが分かり、その個性を認め合い、良さを見付ける活動になるようにした。
- ・ スピーチ活動では、5つのテーマを話が膨らみやすいように子どもたちが設定し日替わりに行っていた。サークル活動では、自分が興味あること、得意なことテーマにして個人でやるか友達と一緒にやるかを選択させて活動を行った。

### 4 実際の様子

スピーチ活動では、回数を重ねる度に、友達の意見を最後まで聞いたり、自分の知らなかったことに関して深掘りして質問したりするなどの様子が見られるなど、スピーチ活動を通して、互いを認め合うことができてきた。また、そのことがスピーチの時間だけではなく、授業の中の発言に対しても同様に、友達の意見を聞き合い、認め、尊重するという態度や雰囲気の醸成に確実に繋がっている。

サークル活動では、自分の得意分野について調べたことを発表した。学級全員が発表を終えたとき、友達の頑張っているところや良いところを探して伝える活動を行った。クラスみんなに認められている気持ちがひととき強くなり、それぞれの児童が学級への居心地の良さが増していったと感じた。

### 5 実践を続けた後の学級の様子

レーダーチャートを活用せず学級力の向上を目指し、スピーチ活動やサークル活動に取り組んできた。これらの活動を通して、児童同士が互いを認め合い、尊重する雰囲気が徐々に形成された。特に、友達の良いところを積極的に探し、言葉で伝える場面を重ねることで、児童一人一人が「自分はクラスにとって大切な存在である」という実感をもつことができた。その結果、学級全体に温かい居場所感が広がり、安心して意見を述べたり協力し合ったりする姿が多く見られるようになった。今後も、このような相互理解と承認の文化を継続的に育むことで、より良い学級づくりにつなげていきたい。

## 全員参加の学級力会議

日進市立赤池小学校

### 1 学級力を始めた頃の学級（学年・学校）の様子

年度の初めから、学級全体に注意の声を掛けることができる児童は数人いた。素直な児童が多く、注意されれば気付いて行動を正す姿が見られた。しかし、学級の問題について自分で気づき、問題意識をもつことができる児童は数人だった。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

事前に児童には、学級の問題についてプリントに記入させ、一人一人に意見をもたせた上で話し合いに参加させた。学級委員にはそのプリントを基に、何について話し合うかを考えさせた。

毎週月曜日に、今週の学級目標と学級のために自分ができると思うことをプリントに書かせて、自分の机の右上に設置したクリアポケットに提出させた。金曜日に振り返りを書かせることで、常に当事者意識をもたせることができた。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

一人一人の意見を尊重するために、反対の意見を出させたり多数決で決めたりするのではなく、折り合いを付けて結論を出すような話し合いをさせた。そのために、児童には出てきた意見の共通点を探しながら、まとめるように指示した。

また、出てきた意見に対する反論をする際には、「私は違う新しい意見をもっている」といった表現に統一させた。

### 4 実際の様子

出てきた意見に対して、全員がこのプラカードで意思表示をさせる（写真1）。挙手しない限りは当てられない決まりがあるので、全員が安心感をもって意思表示をすることができた。

スモールステップで学級力会議に参加させることによって、次第に挙手をして意見を発表することができる児童が増えていった。



【写真1 意思表示カード】

### 5 実践を続けた後の学級（学年・学校）の様子

学級の中で、全員が一つの目標に向かうような姿勢が育ってきた。また、自分が目標の達成のために何ができるかを考え続けさせることで、学級全体に声を掛けることができる児童が明らかに増えた。

初めは、自分の行動や意識を変えるためだけの個人的な取組が多かったが、次第にクラス全体に意識を向けた取組が増えていった。また、今まで見えていなかった学級の課題を、児童自らが見つけられるようになった。

## 子どもたちが主体的に取り組む学級活動

日進市立竹の山小学校

### 1 学級力を始めた頃の学級の様子

- ・ アンケート内容に対してまじめに回答をする姿が見られた。
- ・ チャートの凸凹に興味を示していた。
- ・ 一番チャートがへこんでいる内容に話題が集中した。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

- ・ 個々の名前は出すことをしないという約束のもと、今の学級に対して班で話し合いをたくさんさせた。
- ・ 課題に対する改善策を自分たちで考え、実践させ、反省点を自分たちでまた見つけるようにさせた。
- ・ 話し合い活動に、できるだけ教師が介入しないようにした。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

- ・ 今の学級についての思いを学級力新聞に書き、掲示し、個々の意見を大切にさせ、話し合い活動に活用した。
- ・ 少数派意見も話題に上がるようにさせた。

### 4 実際の様子

- ・ 掲示されている学級力新聞をよく読み、興味のある友達の新聞をタブレットで撮影し、撮影したものを見せながら、班の友達と共有し合い、自分の意見や友達の意見を織り交ぜながら活発に話し合いを行った。
- ・ 自分たちで考えた改善策を取り組み、次回のアンケート結果で改善されていないこともあるが、消極的な意見が出ることはなく、いつも学級委員司会のもと、前向きな意見で話し合いを進めることができた。

### 5 実践を続けた後の学級の様子

- ・ 自分たちの学級の様子が、チャートから分かるため、チャートがより大きくなるとよいという気持ちで、改善策を子どもたちなりに考えて、実行している。
- ・ 自分たちの長所が時には短所になっていることについて話し合ったり、自分たちのよいところを認め合い自信につなげたりしている。

# 学級力による支持的風土の醸成

日進市立日進中学校

## 1 学級力を始めた頃の学級の様子

学級力を始めたころは、「挨拶」「協力」など学級目標を達成するためのキーワードを学級全体で取り組もうとする姿が見られた。一方、個々の生徒に注目すると、授業前に着席することや帰宅準備をすることなど、時間に対する意識が低い生徒や、ロッカーの荷物が散乱し片付けられない生徒の姿が見られた。また、そのような級友の様子を見ていても、他人事のように接し学級全体の課題としての危機感が薄かった。

## 2 より当事者意識をもたせるための工夫

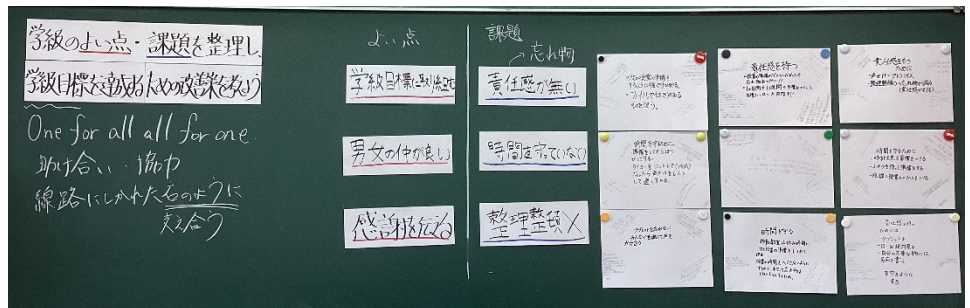
当事者意識をもたせるための工夫を2つ行った。1つ目は、学級力アンケートを利用し、学級会を行ったことである。学級会では、4人班で学級の課題を話し合い、各班で発表を行い、最後に学級全体で共有した内容から個人ができる「行動」面を振り返らせることで当事者意識をもたせた。2つ目は、学級のリーダーによる週訓決めである。週ごとに学級の現状をリーダーたちで情報共有し、学級全体で意識させたいことをホワイトボードに記載し、掲示することで学級全員に確認ができるようにした。

## 3 より個の意見に寄り添うための工夫

個の意見に寄り添うため、学級力アンケート内の「備考欄の個別回答状況」の活用や、学級会での生徒の考え・発言を尊重する雰囲気づくりを工夫した。特に雰囲気づくりについては、道徳の授業の中でも同様の話をした。

## 4 実際の様子

6月に行った1回目の学級会では、時間に対する意識の低さとロッカーの整理整頓という課題を解決するための案が提案された。リーダー以外の生徒による声かけや次の授業の準備を意識的に呼びかける、タイマーを活用した時間管理、学級のリーダーによるロッカーチェックキャンペーンを実施した。10月に行った2回目の学級会では、1回目の結果と2回目の結果を比較した。前回の課題から改善できたところがあれば、ロッカーの整理整頓や個人の意識の低さなど、前回と変化のないものもあった。



## 5 実践を続けた後の学級の様子

10月の実践後、学級のリーダーを中心に体育大会や学級レクリエーションの出し物など、学級全体で取り組むことには意欲的に参加する生徒が多く見られた。また、学級のリーダー以外の生徒が授業の1分前に着席するための呼びかけや時計を見て行動する生徒が4月と比較して多くなった。一方、4月当初の緊張感が緩み、授業中の私語が目立つなどの新たな課題も出てきた。学級目標に立ち返り課題解決できるようにしていきたい。

## 学級力を通して生徒と共に作り上げる集団意識

日進市立日進東中学校

### 1 学級力を始めたころの学級の様子

本学級の生徒は、とても素直で優しい生徒たちである。決められたことは守り、示されたことに一生懸命に取り組むことができる。しかし、主体的に行動したり自分たちで考えて問題解決をしたりしていくことには消極的な面がある。また、教師からの指示を待っていたり、集団で取り組むことに対して、自分事として捉えていなかったりする様子が多く見られた。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

そのような生徒たちの様子から、学級づくりに対してより当事者意識をもたせるために、学級役員が中心となってスマイルクラスを使った学級会の司会や運営を行うことにした。教師はあくまでもファシリテーターとして、学級役員と事前の打ち合わせを行い、学級会の流れを確認する役割を担った。学級会では、生徒同士が積極的に学級をより良くするための話し合いができるように、アンケート結果を全員で共有しながら、小グループでの意見交換と全体での話し合いをバランスよく取り入れた。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

発言力の高い生徒の意見だけが話し合いに反映されないように、スマイルクラスのアンケートにはクラスの実態についての自由記述をできる欄を設け、個々の素直な考えを表現できる場として活用した。自由記述で出てきた意見を全体で共有することで一人一人の意見を自分たちの問題として考える機会にすることができた。

### 4 実際の様子

最初の頃は、スマイルクラスでの話し合いの後に、教師に促されて、スマイルアクションを決めたり、行動に取り組んだりしていたが、慣れてくると学級役員が中心となって自ら進んでクラスの行動指針となるようなスマイルアクションを毎週設定し、帰りの会で毎日振り返ることが習慣となっていった。そして、スマイルアクションができていなければ次の週も継続して行い、当たり前になるようになるまで、トライ&エラーを繰り返しながら行動し続けた。行動の判断を教師ではなく生徒たち自身で行動を省みながら、評価している姿がとても素晴らしかった。

### 5 実践を続けた後の学級の様子

3回行ったアンケート項目のグラフの数字は停滞しているのが現状だ。しかし、数字が停滞しているから前進していないのではなく、数字に表れない学級への意識の高まりや、個々の集団への関わり方の変化を確実に感じられる。この取り組みは、集団のために自ら動く意識や組織改善のためのトライ&エラーの実践方法の経験値の種をまくことができるものだと実感しており、今後も長期的な視点で見ていく必要がある。

## レーダーチャートを通して学級の課題の改善を図る

日進市立日進北中学校

### 1 学級力を始めた頃の学級の様子

本学級は全体的に男女の仲が良く、和気あいあいとした雰囲気が見られる。一方で、元気なあまり授業中に私語が目立ったり、偏った生徒だけが発言をしたりすることが多々あった。行事に向けて一丸となって団結していくため、問題点や課題を出し改善策を練るために、スマイルクラスのレーダーチャートを活用した。

6月第4週（1学期期末）、9月第3週（2学期文化祭前）、10月第1週（2学期文化祭と体育祭の間）、10月第5週（2学期体育祭後）の計4回アンケートを行った。

### 2 より当事者意識をもたせるための工夫

アンケートを通して、「規律力」「対話力」「安心力」について話し合った。「対話力」に対する話し合いでは、「話し合いの時、進んで考えや意見を発表することができるか」という質問に対して、一部の生徒が偏って発表するといった意見が多く出たため、それに対する改善策を話し合った。話し合った結果、「発言をする前に、班やペアで話し合いをする機会を設ける」、「意見を発言したら拍手をするなど、発言しやすい雰囲気を作る」といった意見が出た。そのため、普段の授業でより生徒同士で理解をしてから発言の機会を設けるように話し合いの場を用意するなどの工夫をした。

### 3 より個の意見に寄り添うための工夫

「安心力」の話し合いの中で、「だれかが発言しているときに他ごとを話してしまっている」との意見が出た。無駄話をしてしまうことに対する改善策として、「道徳や学活の授業で個人が意見を言ったときにあいづちをうったり、リアクションをしたりする」などの改善案が出た。そのため、話している相手を尊重するために発言している人に体を向けて、リアクションを取るなどの声掛けをした。

### 4 実際の様子

班の中で話し合いをする時間を設けると、班員に意見を聞いてもらったことで安心感を得て、以前より自信をもって意見を伝えることができるようになった。また、その後のクラスでの意見交換では、以前より多くの生徒が意欲的に発言しようと挙手をするようになるようになった。

また、個人が意見を言ったときには、リアクションをとることで話者が発言しやすい雰囲気を作ることができた。また、体を向けて聞くことで勇気をもって発言しているということを聞き手が理解して、真剣に話を聞いていることが目に見えてわかるようになった。

### 5 実践を続けた後の学級（学年・学校）の様子

スマイルクラスのレーダーチャートを活用すると、学級の生徒全体が感じている課題が一目瞭然でわかるため、改善点を話し合いやすい。実際、クラス全体が「学級力向上」を意識して、より安心して過ごすことができる場になるように努力して見える。リーダーも以前より学級に対するよい声掛けが増えている。今後も、行事前だけでなく、1年間を通して、学級力を向上させるために様々な策を講じていきたい。

日進市立西小学校 「学級力の向上を目指した授業実践の感想・反省」	
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の長所・短所を可視化することで、児童が学級の様子に気づくことができた。</li> <li>・話し合いで目指す姿が明確になり、具体的に何をすればよいのかがはっきりしているので、児童も行動に移しやすくてよかった。</li> <li>・スマイルクラスで結果が出た後の話し合いで、「意識する」などの抽象的な意見が多く出てしまったので、具体的な改善策が出せるように声かけをしていきたい。</li> <li>・どこまで児童に響いているかはわからないが、繰り返し行うことは有効だと思う。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで学級のことを話し合う中で、学級の仲が深まったと思う。</li> <li>・みんなも同じように思っていることがわかり、自分だけではないと安心できた。</li> <li>・授業中、むだなおしゃべりが多そうという意見が出てから、「今はしゃべらないよ」などと、注意をする子が出てきて、協力して取り組むことができた。</li> </ul>

日進市立東小学校 「みんなが小さなヒーロー」	
教員	<p>子どもたちと一緒に「どんな学級がよりよいか」を話し合い、その考えを中心に据えて、学級経営を進めました。子どもたちは、自分たちで決めたことに責任をもち、思い通りにいかないときも諦めずに取り組んでいました。困っている友達を助けたり、みんなでよりよくしようと奮闘したりする姿から「自分たちの学級をよくするのは自分たち」という思いが育っていることを強く感じました。その姿は、まるで「小さなヒーロー」でした。また、教師としても、リーダーシップや関わり方について深く学ぶことができました。</p>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転校したばかりの1学期は、困ってしまうときもありました。でも、学級力の取組のおかげで、2学期からは、しっかり学級に溶け込むことができました。</li> <li>・自分たちの力でできているので、嬉しいし、またやりたいです。</li> <li>・自分たちでやるのは大変だけれど、どんどんレベルアップしていると感じます。</li> </ul>

日進市立北小学校 「学級力向上のための学級活動を行って」	
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級のグラフが、担任が思っていることと児童が感じていることが違って驚きだった。子どもたちが思う課題を、同じ目線で共有できるのがよかった。</li> <li>・児童が自分事として考えられるところがとても良かった。それにより、児童が積極的に話し合い、問題をはっきりと見える形にできるところがよかった。</li> <li>・低学年でも、自分の学級に強い関心を抱いていることに驚きだった。児童と共に振り返りながら解決方法を考えられてよかった。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーダーチャートを見て、自分のクラスの弱みを見て「やばい」という声や「クラスの直した方がよいところがすぐわかる」「良いところも分かりやすい」と言っていた。</li> <li>・2回目以降になると、「話し合えるのが楽しい」「前より良くなった」「〇〇ができるようになった」という声もあった一方、「前に戻っちゃったね」という声も上がった。</li> </ul>

日進市立南小学校 「みんなで参加する学級づくり」	
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級アンケートを活用すると、グラフで視覚化されて分かりやすいので、話し合いがスムーズに行えた。</li> <li>・話し合いにより児童のアイデアからクラスをよくしていこうという雰囲気となった。自分たちの力で自分たちのクラスをよくしていく意識がもてるようになった。</li> <li>・工夫①学級会の際に、学級目標をふり返ることを大切にした。②今後の対策を個人と全体で分けた。③課題に目を向けがちだが、よい部分にも目を向ける声掛けをした。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級力アンケートの結果が、グラフで出てくるので直すところとよい所(続ける所)が分かりやすかった。</li> <li>・続けること、改善するべきことが明確になってよかった。</li> <li>・目標をつけたことで、みんなで協力でき、絆が深まったと思う。</li> </ul>

	日進市立相野山小学校 「スマクラWEEKから10分報告会まで」
教員	<p>昨年度から、学期の初め、大きな行事の区切りなどにスマクラWEEKという取組があります。この期間は、積極的に学級会議を開催しました。教員同士の共通理解として、職員会議や帰りの打合せ後の時間を有効活用し、10分報告会で学級の詳細を報告しました。「まなびポケット」に学級力フォルダがあり、コメント欄に学級会議の様子が分かる数枚の写真と現状報告文を投稿します。他の学級の取組で気になったものがあれば、担任同士で情報共有をして、自分の学級でも取り入れました。</p>
児童生徒	<p>私の学級は、司会、書記など自分たちで行いました。黒板に提示するプレートとして、「読取」「議題」「原因」「目標」「具体策」と5つに分けられているので、まずは、各班に分かれてレーダーチャートを見ながら分析し、その日の会議の議題を決めていくといった流れで進めました。このプレートがあるので、学級会議がスムーズにできました。</p>

	日進市立香久山小学校 「学級力向上プロジェクト授業実践を通して」
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級運営において、担任が一方向的に決定するのではなく、子どもたち自身が主体的に意思決定できることに気付くことができた。</li> <li>・学級の現状を把握し、今後目指すべき方向性を明確にすることで、学級が一体となってまとまり始めていることを実感した。</li> <li>・クラスで設定した「達成したい力」を意識しながら行動する姿が見られ、クラス全体に「やらなければならない」という問題意識を芽生えさせることができた。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を達成するための具体案を出していることで、子どもたちは迷うことなく行動でき、多くの児童が達成感や満足感を得ることができた。</li> <li>・子どもたちは、自分たちで目標を設定し、努力し、その達成状況を振り返り、次の目標を立てるというサイクルを繰り返す中で、学級に能動的に関わろうとする姿勢が見られた。</li> </ul>

日進市立梨の木小学校 「互いの違いを認め、関わりあって伸びていく児童の育成」	
教員	スピーチ活動やサークル活動を通して、児童が主体的に学ぶ姿が多く見られ、授業全体が前向きな雰囲気にも包まれた。そのことが、様々な授業において、子どもたちの発言が活発になりお互いの意見が繋がっていくことを実感した。準備には時間がかかったが、その分やりがいを感じた。レーダーチャートを使わない方法で学級力を高めてきたが、協働的な学びが随所に見られ、互いに教え合う姿が自然に生まれたのが成果である。今後も、子どもの主体性を最大限に引き出す授業を目指していきたい。
児童生徒	友達と話し合うことで仲良くなり、意見を聞く大切さや新しい発見を感じました。スピーチは緊張したけれど、終わった後の達成感がとても大きかったです。間違えても安心して挑戦でき、協力して考える活動は楽しく笑顔があふれました。今後、このような授業があったら、もっと工夫して自分の考えを広げたいと思います。

日進市立赤池小学校 「全員参加の学級力会議」	
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマイルクラスを使って意見をすぐにグラフで可視化できるようになったことで、子どもたちが「自分も学級の一員だ」という気持ちを強くもつようになった。</li> <li>・学級会を続けていく中で、子どもたちに「自分たちで学級を良くしていこう」という意識が生まれ、学級の課題を自分のこととして考えられるようになった。</li> <li>・学級会を頻繁に開くことで、学級目標の意味を子どもたちがはっきりと理解できるようになり、学級目標がより身近に感じられるようになった。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会を重ねて、友だちの考えを最後まで聞くことの大切さが分かり、クラスのことを自分のこととして考えられるようになった。</li> <li>・話し合いを重ねたことで、みんなで決めることの楽しさが実感でき、クラスを良くしたいという気持ちが強くなった。</li> </ul>

	日進市立竹の山小学校 「子どもたちが主体的に取り組む学級活動」
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちだけで司会，進行していく学級会で，主体性に取り組める活動になった。</li> <li>・チャートを見ることで，自分たちの学級の様子を客観的に見ることができていた。</li> <li>・課題解決に向けてのアイデアを膨らませることが，なかなか難しいと感じた。</li> <li>・小学1年生から中学3年まで継続的に続けることで，どのような効果や結果が出るのか知りたい。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャートを見ると，自分のクラスの問題点がわかって，注意しようという気持ちになれる。</li> <li>・みんなの意見が聞けるからいいと思う。</li> <li>・改善されることもあって，うれしい気持ちにもなれる。</li> <li>・問題点はわかって，改善策を考えることが難しく，改善されないことも多い。</li> </ul>

	日進市立日進中学校 「学級力による支持的風土の醸成」
教員	<p>学級力アンケートをきっかけに学級会を開くことができ，学級の状況を数値やレーダーチャートで視覚的に把握できた点がよかった。アンケート結果で学級の課題が分かり，話し合いで改善していこうとする支持的風土が作りやすかった。項目について，生徒たちの理解が深まることで，数値が下がってしまうことがあり不安になったが，振り返りや成長している姿を見ることができた。備考欄のテキストマイニングによって，学級で大事にしていた言葉が大きく表示されるので，級訓を振り返る際の手助けとして利用できた。</p>
児童生徒	<p>アンケート結果をグラフで見ることができるので分かりやすかった。学級のよいところ，改善したほうがよいところが分かりやすかったため，話し合いが進めやすかった。1回目，2回目と定期的にアンケート結果が比べられることで，自分たちの成長の度合いが理解しやすく，今後どのように改善していけばよいかの見通しが立てやすい。</p>

日進市立日進西中学校「学級力向上プロジェクトで自ら成長し続ける生徒たち」	
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高めていきたい領域の力を考えた後に、クラスの目標を考える。ここまでの道筋をクラスで考えることができるため、自分がクラスにどう関わっていけるかを考えやすくなり、当事者意識が高まりやすいと感じる。</li> <li>・生徒がクラスの現状やありたい姿について考えられる機会の確保がよいところだと思います。また、生徒たちが決めた取組は可能な限り実現させることで、生徒主体での学級運営につながるのではないかと期待して日々実践しています。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスのために、何か自分でもできることを探そう、行動しようという意識をもつことができるようになった。</li> <li>・自分で考えて意見を言えるようになりました。小学生まではルールに従っていただけだったので、自分たちで目標を決めて達成に向かって努力するのは楽しかったです。</li> </ul>

日進市立日進東中学校 「スマイルクラスで笑顔あふれる学級に」	
教員	<p>学級経営に対する、「何となくうまくいかない」という悩みや、「教師と生徒の意識のずれ」をどうすれば調整していけるのかという、答えの見つからない問いに長年向き合ってきました。今回「学級力向上プロジェクト」を通して、スマイルクラスやスマイルアクションの活用方法を学ぶことで、具体的な手立てと学級経営の見通しをもつことができました。この活動は準備が手軽で、継続しやすい点に最大のメリットを感じます。1年間を通して学級の実態を可視化し教師と生徒が共通認識をもって学級づくりができる実感がありました。今後も活用していこうと思います。</p>
児童生徒	<p>スマイルアクションを続けることで、具体的な目標に向けてみんなで協力することができ、クラス全体の成長を感じました。今まで取り組んできたスマイルアクションは当たり前のこととして継続し、まだ課題が残っていることは、新たなスマイルアクションを皆で考えて取り組んでいきたいです。自分たちでクラスをよくしようと行動することにやりがいを感じています。</p>

日進市立日進北中学校 「学級力を高めて生徒が過ごしやすい学校をつくる」	
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士のコミュニケーションが増えるのは良いと思う。また、学級経営や学年経営に生かすことができるのがとても良いと思う。</li> <li>・生徒が課題を見つけ、改善点や手立てを考え、行動にしていけるので、より生徒が意識しやすい授業になると感じた。継続的に行うとよりよい効果が出る。</li> <li>・学級力向上プロジェクトを通して、行事ごとにも学級会を開く習慣がつくので学級経営のツールとして大いに活用している。</li> </ul>
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に言われて考えるのではなく、自分たちで考えてクラスを良くしていこうと考えられるから良い。目標が見えて、次のステップに進める。</li> <li>・六角形や各アンケートの割合から、クラスの強みや課題を見つけやすかった。</li> <li>・データが可視化できるとわかりやすい。どこが伸びて、どこができていないかわかる。</li> </ul>

# スマイルクラスに関する Q & A

## 1. アカウントについて

### 1. 1 IDやパスワードを忘れた場合はどうすればいいですか

児童生徒のID及びパスワードは教員アカウントから閲覧できます。担当教員（担任）のアカウントから【児童生徒一覧】を閲覧してご確認ください。

なお、教員用アカウントの紛失の場合は管理者アカウントで閲覧可能ですが、管理者アカウントがない場合は、ログイン画面に記載のテクニカルサポート窓口にご連絡ください。

## 2. 動作について

### 2. 1 突然画面が動かなくなりました。どうすればよいですか。

ネットワークが原因の場合は一度再読み込みをして動作を確認してください。再読み込みをしても改善されない場合は開いている画面を閉じて、再度サービスに接続してください。それでも改善しない場合は、コンピュータを再起動してお試しください。ネットワークが原因の場合はしばらく待ってから再接続することで改善する場合があります。

## 3. 通信環境について

### 3. 1 生徒端末がオフラインでも利用できますか

本サービスはオンラインで通信することにより動作しますので、オフラインでは使用できません。

なお、授業づくりのツールやニコニコカード等の資料は、ダウンロードすることでオフラインでも閲覧することが可能です。

### 3. 2 データはどこに保存されていますか。セキュリティは確保されていますか。

本サービスのデータは、サービスを運営会社が契約しているクラウドサーバー上で保存・管理されています。保存される情報は、安全なデータベースに格納され、通信はすべて SSL/TLS による暗号化を行っています。また、運営会社においてもアクセス制御やバックアップ体制を整え、各学校で安心してご利用いただけるようシステムを構築しております。

## 4. スマイルクラスの導入について

### 4. 1 保護者にはどのように説明すればよいか

文部科学省が令和5年に発出した「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」では、学校の風土を「見える化」することや快適で温かみのある学校（学年・学級）としての環境整備が学校に求められています。この課題に対応するために、本サービスのような児童生徒が主体となって学級の雰囲気や学習をよりよくするツールが必要であることを説明いただけると良いかと思えます。

## 5. サポート情報について

### 5. 1 技術サポート窓口

スマイルクラス事務局 smileclass2023@gmail.com

### 5. 2 契約・導入サポート窓口

スマイルクラスの契約条件, 見積もり, 更新手続き等に関するご相談

教育委員会単位・学校単位・教員単位での導入に対応

合同会社 KFT kft.kobayashi@gmail.com

### 5. 3 本サービスの運営

本サービスは, 教育 ICT の企画・開発を行う合同会社 KFT(法人番号: 4240003006421)が運営しています。本サービスに関する詳細は合同会社 KFT 公式 Web ページ (<https://smileclass.net/>) にも掲載しています。詳しくは「スマイルクラス」で検索してください。

本報告書は、令和7年度学級力向上プロジェクトの成果物の一つとして、愛知教育大学磯部征尊研究室にて作成しました。

## 日進市学級力向上プロジェクト

### 研究成果報告書

発行人

磯部 征尊（愛知教育大学准教授）

〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢 1

発行日

2026年2月